

空中計測・マッピング部会活動報告

発表者 空中計測・マッピング部会 部会長 山田秀之  
空中計測・マッピング部会 レーザ WG 大鋸朋生

◆レーザ WG 活動報告 (2019 年度活動のトピックス)

国土交通省では、2011 年から河川縦横断測量を高度化・効率化するための航空レーザ計測技術適用に関する研究を行っており、これに呼応する形で 2016 年ごろから国内の航空測量会社で順次導入が進み「作業規程の準則第 17 条第 2 項」適用による航空レーザ測深機 (ALB) を利用した公共測量としての水底部の地形測量が始まった。その後、同省各地方整備局においても「河川定期縦横断測量における点群測量」として航空レーザ測量の適用可能性が試行されており、2019 (平成 31) 年 4 月には国土地理院が航空レーザ測深機による公共測量を行うための「航空レーザ測深機を用いた公共測量マニュアル (案)」を作成・公表するに至った。

このように、今後、新技術である航空レーザ測深 (ALB) が公共測量として認知され、標準積算基準書 (通称「青本」) への組み込まれることを視野に入れて、測技協としての積算基準および歩掛りを取りまとめるために空中計測・マッピング部会の下部組織であるレーザ WG では 2019 年度の活動のトピックスとして『航空レーザ測深 (ALB) の積算基準』に関する検討を行い、昨年 11 月刊行の「2019 年度版公共測量積算ハンドブック」に新たに掲載した。この積算基準の内容について概要を報告する。

なお、公共測量としての航空レーザ測深 (ALB) の実施件数も需要に呼応する形で伸びてきており、導入された 2016 年度からの 3 年間で 70 件弱が実施されており (2019 年度分は取りまとめ中)、この新技術に対する取り組みが進んでいることの一部をうかがい知ることができる。

◆日韓空間情報フォーラム

2019 年 10 月に日韓空間情報フォーラムが開催されました。このフォーラムは 2009 年に韓国ソウルで開催された第 1 回日韓レーザ計測シンポジウムから始まり、2017 年度からは日韓空間情報フォーラムと名前を変えて今回に至っている。当初から数えると 2018 年度大会で 10 回目を迎え、本フォーラムで 11 回目の開催となった。

今回の開催は韓国での開催であったが、初めてソウルを離れ済州島で開催され、日本から 10 名、韓国から 17 名の計 27 名が参加した。技術発表は日本からはセンサー、ALB、UAV、i-Construction を話題とした 4 編を発表し、韓国からは 7MMS、3D 都市モデル、UAV、BIM/CIM に関連する話題等の 7 編の発表があった。日本からの発表は英語による発表であったが、堂々とした発表が行われた。韓国からの発表も日本ではあまりない視点での MMS 活用事例、スマートシティなど先進的な取り組みの発表があり、両国の空間情報産業の発展と技術者間の交流が深まった。